

# 令和4年度「言語文化」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	普通科・理数科・美術科	国語	言語文化	2	必修
<b>教科書</b>	高等学校 言語文化(第一学習社)				
<b>副教材</b>	新版五訂 新訂総合国語便覧(第一学習社) 二訂版 古典文法(京都書房) 新説 漢文必携(桐原書店)				

学習の目的	
1	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
2	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
3	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習の目標		評価の割合
<b>I</b> 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	6
<b>C</b> 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	2
<b>E</b> 学びに向かう力・人間性等	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	2

<b>つきたい力</b>	学習内容を人生や社会のあり方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることができるための「主体的・対話的で深い学び」を実現することができる。
--------------	---

評価方法	I	C	E
◇ 定期考査や小テストの結果、課題やレポートの提出状況、学習ポートフォリオ、成果発表状況、作品制作など、総合的に判断して算出します。	○	○	○
◇ 授業に取り組む姿勢としては、予習復習を含む授業態度、グループ活動や発言の状況などを評価の対象とします。		○	
◇ 課題やレポートなどの提出物については、提出期限や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたかなどを主な評価基準とします。	○		
◇ 考査では、授業での学習内容が理解できているかどうかを確認します。応用問題も出題します。	○	○	
◇ 考査のふり返し学習を行い、学習内容の定着や学びに向かう力を図る参考とします。			○

履修上の注意および学習のアドバイス等
◇ 言葉による見方・考え方を働かせ、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるよう、常に心がけ、主体的に学習に取り組む態度を身につけること。
◇ 授業用プリントなど補助教材も有効に活用し、主体的・協働的態度で授業に臨むこと。

## 年間指導計画

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	考査	思考を深める問い (C・E)	I: 知識理解	C: 思考判断表現	E: 学びに向かう力・人間性
第1学期	4	【古文入門】 「児のそら寝」 (宇治拾遺物語)	○歴史的仮名づかい ○古文の仮名 ○小言現代語 ○口語訳の留意点 ○古語辞典の引き方 ○古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話のおもしろさや人間描写の巧みさを知る。		※話の面白さがわかるように工夫して内容を文章にまとめ、発表し合おう。	○		
	5	【古文入門】 「絵仏師良秀」 (宇治拾遺物語)	○品詞 ○活用と活用形 ○係り結びの法則  ●返り点の種類と用法 ○古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形のおもしろさを読み取る。	中間考査	※最後の一文の有無で、話の印象がどう変わってくるか、自分の考えを発表し合おう。	○	○	
	6	【歌物語】『歌物語』「芥川」	○仮定条件と確定条件 ○五十音図 ○用言  ※話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。●助字と置き字	期末考査	※教科書挿絵は、後代の解釈に基づいて書かれたものである。本文と比較して気づいたことを発表し合おう。	○		○
		【漢文入門】 「漢文に親しむ」(一) 「漢文に親しむ」(二)	○助動詞の種類と用法※年間を通して単元に 応じ随時学習する ○当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、 ものの見方・考え方を理解する。 ●再読文字 ●句法「否定禁止」「使役」「反語」 ○現在使われている言葉が漢文に由来することを 知る。		※故事成語の由来を調べ、独自の故事成語辞典を作ろう。	○	○	
第2学期	9	【史伝】 「完璧」(十八史略)	○助動詞の種類と用法  ○作中に描かれた考えや人物像を読み取る。● 句法「使役」「願望」「受身」	中間考査	※蘭相如の言動からうかがえる人物像を整理しよう。	○	○	
	10	【日記】「門出」の冒頭の3行 「帰京」(土佐日記) 【史伝】 「臥薪嘗胆」(十八史略)	○記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。 ○助動詞、呼応の副詞、古典常識(十二支) ●句法「疑問」 ○やや長めの史伝を読んで、登場人物を押さえ、主要な人物の考えや主張を読み取る。		※作者紀貫之の事績を調べ、「唐詩はこれにえ書かず。」と記した意図として考えられることを、発表し合おう。	○		○
	11	【随筆】「丹波に出雲といふところあり」 (徒然草)	○敬語 ○用言、助動詞、助詞の総復習  ○作者の批評的精神が提示する事柄を具体的に読み解く。	期末考査		○		○
	12	【漢詩の世界】 「江南春」(杜牧)「春望」(杜甫) 「読家書」(菅原道真)	●漢詩のきまり ○表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。		※それぞれの詩に表現された詩人の心情や描かれた風景を比較し、それをいかして自分の作品を作ってみよう。	○		○
第3学期	1	【物語】 「なよ竹のかぐや姫」 (竹取物語)	○敬語の種類と用法 ○古典特有に世界観に慣れるとともに、千年以上前に作られた物語が現代まで継承されていることを知る。	実力考査	※語り物の特色が表れていると思う描写や表現を指摘し、なぜそう思ったのか、理由を説明しよう。	○	○	
	2	【軍記物語】 「祇園舎倉」(平家物語)  【文章】 「桃花源記・前半」(陶潜)	○敬語の種類と用法 ○合戦を主題とした文学作品を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。 ○漢文の散文作品に触れて読みに慣れるとともに、桃源郷の由来ともなった理想郷の在り方を理解する。 ●句法「限定」「全部否定と部分否定」	学年末考査	※「桃花源記」の根本には中国の老荘思想の考え方があり、『老子』の「小国寡民」の思想について調べ、本文との類似点を発表しよう。	○	○	
	3	【文章】 「桃花源記・後半」(陶潜)	●漢文における「文章」の特徴		※「桃花源記」の根本には中国の老荘思想の考え方があり、『老子』の「小国寡民」の思想について調べ、本文との類似点を発表しよう。	○	○	

※行事等で変更になる場合があります。